

豊橋の「市電」に乗る

10月24日に豊橋の愛知大学で社会調査報告会「インターカレッジ」があり、せっかくの機会なので、午前中に豊橋出身のゼミ生に案内してもらった。お目当ては、「路面電車の走る町」であり、LRT(ライトレール・トランジット・新型路面電車)に乗ることであった。

豊橋鉄道市内線は、地元では古くから「市電」の呼び名で親しまれている。豊橋駅から赤岩口と運動公園前まで二手に延びる5.4キロの路線である。1998年に豊橋駅まで軌道を延伸して、もっとも利用客が多い豊橋駅からの乗り換えも便利になった。路面電車の廃止・縮小が続くなかで、軌道延伸は全国的に話題を呼んだ。駅前の乗り場に「市内電車沿線観光マップ」案内板があり、市内観光アクセスとしても活用されているようで、「市電」による観光まちづくりだ。

駅前から吉田城址に行き、市役所最上階から城下町として歴史を刻む豊橋の町を一望することができた。市役所前駅から2008年12月19日に導入された「ほつトラム」という愛称のLRTに乗ることができた。まだ1編成運行なので、乗る

タイミングが難しいが、ゼミ生が機転を利かせてくれた。やはり乗り心地がよく、駆け足ながら、楽しい「ほつトラムな旅」を満喫できた。



(2009年12月23日 記)